北海之光

12月号　北海道教区報

安らかに信頼している
ことにこそ力がある
イザヤ書30章15節

発行所　北海の光社
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12
日本聖公会北海道教区事務所
電　話　011－717－8181
ＦＡＸ　011－736－8377
E-mail:hikari@nskk-hokkaido.jp
http://www.nskk-hokkaido.jp
発行人　植松　誠

「秘かに進むもの」

釧路聖パウロ教会・
厚岸聖オーガスチン教会牧師
司祭　グレゴリー　松井新世

早朝の電話に良い知らせはない。

父が亡くなった。

父が病になってからの数年間は今考えると私自身の和解と癒しの旅だった。死期が着々と忍び足を立ててくる中で、時に父の耳元で聖書を読み、唱歌「ふるさと」を歌い、これまで父を遠ざけてきた日々を悔いると同時に感謝へと導かれたことに、しみじみとした。

父に寄り添った看護師は「息子さんの声だけが聞こえるのですね」と嬉しい言葉に父の目の奥に涙が。

死は厳粛なものだ。叔母が父の死に立ち会い、その不思議さを分かち合う。

葬儀はしめやかに営まれた。趣味だった将棋の駒と実家のリンゴと息子のジャケットと共に包まれて。

幸せだったかい。

空が微かに橙色に染まる頃、重い疲れに包まれる葬儀の帰りの汽車でのこと。

突然、緊張が走った。

「鹿が列車に衝突したためしばらく停車します」。

酔客が「鹿なら仕方ない」と声を上げるが、皆慣れたもの。新型コロナウイルスでほぼ地元客ということもあり、車掌が走り回り酔客が叫ぼうとも動じない。左後方に視線を感じた。それはおよそ一〇〇m離れた茂みに光るもの。目を凝らすとそれは轢かれた鹿を狙う狐の鋭い眼光だった。

辛く、視線を戻す。

この世には、秘かに進んでいくことがある。

今年文字を追うのが辛かった。そんな中、今年末、ようやく抱きしめたくなる詩集に出会った。

「天上の赤児の眠りを地上に置いて　めぐる呼吸は地にあふれた」（「湧水地より」峯尾博子著『不時着』思潮社収載）その生のリズムは私に幼子イエスとすべての幼子の祝福を指し示した。

ローマ帝国統治下の最中、幼子イエスが誕生されたことを思い出す。

神の独り子の誕生は、外面的に見て何の不思議もない、静かな目立たない形で実現した。旧約時代を通して神は救い主の誕生を秘かに用意してこられたのだ。

しかし、その結果用意されたものは一枚の産着と飼い葉桶だけだった。あくまでも神はご自分の独り子が目立つ形でお生まれになることを望まれなかった。

イエスはあくまでも「幼子」であり続けて欲しかった。しかし「人の子」として働かれる中で、かえって人の悪意により、不遇で悲惨な境遇、波乱万丈の生涯が私たちと共にあった。

御子は微笑んでいたのであろう。しかし、その微笑みが世界を救うとは、誰が知るのであろうか。それは御子の微笑はあまりに切なかったからである。

その後三〇年以上たち、十字架で息を引き取ったイエスを見て、「本当に、この人は正しい人だった」と百人隊長は語った。生まれて間もない幼子も、十字架上のイエスも、裸身に僅かな布を纏っただけの無力な姿だった。けれどもシメオンは、女預言者アンナは、そして百人隊長は、その無力な姿に神の救いを見出し、神を賛美し始めた。

にわかには信じがたいことだが、私たちの神は、きっとこのような無力さで、私たちを救おうとされているのだろう。

それも秘かに。

メリークリスマス！

日本聖公会北海道教区第七九（定期）
教区会主教告辞

主教　ナタナエル
植松　誠

［教区会開催にあたって］

本日、北海道教区第七九（定期）教区会開催にあたり、この教区会のために会場の札幌キリスト教会にお集まりくださいました聖職議員、信徒代議員、教区役員の皆様、また、教区の各地からオンラインでご参加くださいました皆様、またこの教区会のためにご奉仕くださいます皆様に深く感謝いたします。今年二月以来の新型コロナウイルス感染症拡大により、この教区会は今までとは全く異なった形での開催を余儀なくされています。広い北海道教区にあって、教区会は、年に一度、各教会の教役者と信徒の代表が一堂に会して共に礼拝を捧げ、教区のことについて話し合い、主に在る家族の交わりのお恵みを確認しあう時となっていましたが、今年の教区会はコロナ禍の中にあって、このような形で開くことができただけでも感謝すべきであるのかもしれません。今回、札幌キリスト教会と、各地をオンラインで結ぶ異例の開催で、礼拝、諸報告、議案審議などがありますが、たぶんいろいろ手違いやミスなど、予測不可能なことも起こると思います。皆様のご寛容と忍耐をお願いいたします。多くの困難の中、この教区会に臨む私たちに聖霊のお導きが豊かにありますよう祈ります。

［コロナ禍における教区・教会］

昨年の教区会から今日までの一年間、何よりも大きな出来事は、今に至るまで教会や私たちの生活に多大な影響を与え、そしてその影響はこれからも続くことが予想される世界規模の新型コロナウイルス感染症拡大です。二月以来の感染拡大は、三月には道から緊急事態宣言が発令され、またその後、政府からも同じ宣言が出されました。また教区からも感染対策に関するお知らせが毎月継続して出されています。外出の自粛、人々が集まる際にはいわゆる三密を避けることが求められ、ほとんどの教会で礼拝は教役者のみ、または少数の出席者で捧げられ、集会や活動の中止や規模縮小が行われ、牧師たちは信徒宅や病院、施設などを訪問することもできなくなりました。結婚式、重篤の信徒の最期の看取りや葬儀、洗礼や堅信式もこれまでのようにはできない中、信徒たちはどこまで教会生活に関われるか、また教役者たちはどこまで信徒の牧会ができるか、そして、このような状態がいつまで続くのかという重い課題を私たちは抱えています。また、コロナ禍の中、昨年のように教会の礼拝に来られる信徒が減少したことにより、多くの教会は財政的にも困難を強いられています。さらに、それぞれの教会のみならず、教区的にも管区的にもほとんどの活動が制限され、また全聖公会的にも、ランベス会議の二年後への延期など、厳しい状況が続いています。この教区会はまさにそのような困難な中で開催されています。その中で私たち北海道教区の、またそれぞれの教会の福音宣教はどのようにしていくのか、それは今の私たちの最重要課題でもあると思います。

［人　事］

人事について申し上げます。今年三月末で、阿部芳克司祭が定年退職されました。これまでの牧師、また幼稚園園長のお働きを感謝いたします。今年八月には阿部恵子執事が司祭に按手されたことは大きな喜びでした。また、来年三月末をもって、広谷和文司祭は定年となられます。長きにわたる広谷司祭のお働きに、この教区会として深い感謝を表明したいと思います。どうかご定年の後も、北海道教区のためにご奉仕いただけたら幸いです。現在、北海道教区の現役教役者の数は、主教一名、司祭一〇名、執事一名、聖職候補生（神学校在学中）一名がおります。教区内二三教会と九つの幼稚園・保育園の牧会宣教は、現役教役者以外にも嘱託聖職や退職聖職の皆様のご奉仕の協力がなければ考えられません。藤井八郎司祭、甲斐博邦司祭、内海信武司祭は定年退職された後も、長年にわたって嘱託としてお働きくださっています。退職司祭の大友正幸司祭、横山明光司祭も主日礼拝においてご奉仕くださっています。これらの退職司祭の皆様にこの場をお借りして深く感謝いたします。今後も教区は教役者が足りない状況が続きます。聖職へ献身する方々

が興されますように、皆様のお祈りを続けてお願いいたします。

〔宣教協働区・伝道教区制〕

さて、ここ数年の教区会での主教告辞で、私は、主教会が重要課題として協議してきた日本聖公会の再編成についてお話してまいりました。それが、さる一〇月二七～二九日に開かれた日本聖公会第六五（定期）総会で、「宣教協働区・伝道教区制」に関して、日本聖公会法規を一部改正する議案として主教会から提案されました。「教区制の改革」については日本聖公会でも過去何回かにわたってそのための特別委員会が設置され、検討されてきました。そして、その結果、現行の教区制では、将来的には様々な問題が生じてくることが指摘され、教区統合・再編を含む教区制改革の必要が提議されました。しかし、いずれの場合も、「総論賛成各論反対」のようなことで、それ以上の進展は見られませんでした。ほとんどの教区が、「まだ自力でやっていける」という思いを持っていたことが、この議論がそれ以上進展しなかったことの原因であったと思います。

主教会は二〇一二年の宣教協議会以降、日本聖公会の現状と将来的展望について協議を重ねてきました。そしてその中でも、ここ数年、重点的にこの教区制改革について協議してきました。「まだまだ大丈夫・・・」と思ってきた諸問題が、どの教区でも数年先には現実となっていくことが明白だという危機感と緊張感を主教会は共有しています。一〇月の総会で主教会から提案された「宣教協働区・伝道教区制」はこれまでの日本聖公会のあり方を大きく変えようという議案です。将来的には一一ある教区を再編してその数を少なくするというものですが、その前に、まずは日本聖公会を三つの宣教協働区に分けて、そこに立てられる協働委員会が、自分の教区だけではない新たな宣教協働区の運営・宣教・牧会について積極的に取り組むということ、また、教区によっては主教を持たない「伝道教区」になっていくということ、そして教区の再編を促進するということがこの議案の趣旨でした。

日本聖公会法憲第一条は、「日本聖公会は主教の司牧する若干の教区より成る管区である」と規定しています。これは私たちが、主教の司牧する教区という自律した共同体を基本単位として宣教・牧会の業に励んでいることを意味しています。各教区はそれぞれの固有の歴史、伝統、慣習、制度的違いをもって歩んできました。それらは、それぞれの教区の豊かな多様性ではありましたが、他教区との協働を困難にしてきたとも言えます。

しかし今回提起された「宣教協働区」という考え方は、従来の教区という単位を越えて、共に支えあい、共に歩もうとするものです。そのためにはそれぞれの教区の持つ違いを分かち合い、理解し合い、それらを用いてよりよい方向を目指していくことが期待されます。宣教協働区に建てられる協働委員会の使命は、このような違いを分かち合い、理解し合うための調整機関です。またそれらを理解しあった上で、宣教協働区内で求められる宣教活動や、助けを必要とする部分への牧会活動を具体化するための計画を策定する機関でもあります。これらに加えて、協働委員会には教区の再編成（教区の合併や設立）を立案・調整する働きが求められています。

今までの法規では、各教区には必ず教区主教が置かれることになっていましたが、今回の法規改正で規定された「伝道教区」とは、教区主教を置かず、管理主教の下で原則五年以内に他の教区と合併等の再編を目指す教区のことです。一つの教区が伝道教区となれば、その伝道教区のためにも宣教協働区内の諸教区が、共に支え合い、共に歩み、結束力をより強めるものとなるでしょう。

先の総会では三時間にもわたる熱心な議論の末、最終的には圧倒的多数でこの議案は可決されました。総会で可決されましたので、この議案はさっそく実行に移されます。北海道教区は、東北教区、北関東教区、東京教区と共に宣教協働区を構成し、それぞれの教区から協働委員を出して、上記のような、教区の垣根を超えた宣教体制について協議し、できるところからそれに取り組んでいきます。総会可決を受けて、北関東教区では、本日開かれている教区会において、伝道教区になるという議案が出されています。それが可決され、日本聖公会総会が承認すると、北関東教区は教区主教を持たない伝道教区になります。これから先、北海道教区も今後の教区の在り方について、教区内ではもちろんのこと、宣教協働区内でも大いに議論をしなくてはなりません。私は二〇二二年三月末で定年となりますが、日本聖公会法規に

よりますと、その一年前、つまり来年四月以降、後継主教を選ぶことが可能となります。そのこともよく考えながら、これからの教区の歩むべき道を選び取っていくことが求められます。

［宣　教］

これまでの教区会期、私たちの宣教は新型コロナウイルス感染拡大によって大きな影響を受けました。冒頭でも申しましたが、私たちの教区・教会の礼拝、信徒への牧会、教会の行事、集会、社会への働きかけなどすべてにわたって、これまで経験したことのない困難や問題に直面しています。教会の礼拝に信徒が集い、礼拝や集会などによって養われ、また牧師たちは信徒宅や施設・病院を訪問して信徒とともに祈るというこれまで当たり前であったことができないという状況の中で、教役者も信徒も苦しんでいます。それぞれの教会では感染対策を十分に講じて、いろいろな制約の中で礼拝をおこなってきました。人との接触をできるだけ避け、また互いに距離（ソーシャル・ディスタンス）を空けるということ、これは私たちの従来の教会生活とまったく相容れないことでした。そのような中、春と秋に教役者たちが集い、それぞれの教会の状況、また教役者の思いなどを分かち合いました。感染対策についても協議しましたが、私たちの宣教はどのようにすべきかが重大なテーマでした。教会の状況はそれぞれ異なりますが、その中で教役者や信徒が小規模の礼拝や集会を開いたり、文書や電話、ＩＴを使って信徒とコミュニケーションを図ったり、コロナ禍で困難な生活を余儀なくされている方々への食糧支援など、創意工夫して宣教・牧会に取り組んでいることなどが報告され、宣教の可能性について多くの示唆が与えられました。

コロナ禍はこれからも長く続くと思われますが、教会の信仰共同体のあり方、礼拝、牧会、奉仕、教育、福祉、社会との関わりなど、私たちの宣教の大きな課題として私たちは取り組んでいく必要があります。先に述べました「宣教協働区・伝道教区制」に関して、日本聖公会の組織の問題以上に、最も重要な「福音宣教」の観点から、大いに議論をしなくてはなりません。「宣教」は教会の使命です。宣教しない教会は教会ではありません。もちろん、議論することは宣教ではなく、その議論から宣教の具体的な内容と方策を考え、実行に移していくことが大事です。

二〇二二年には日本聖公会全体での宣教協議会が開催されます。そこでも、日本聖公会の新しい体制の中、またコロナ禍の中、「宣教する教会」、「宣教する私」とは何かを協議しますが、今、この時、それぞれの現場で、主イエスから与えられた宣教の使命をどのように捉え、どのように自分を献身していくかは、宣教協議会を待つまでもなく、今から自分の課題として、教会の課題として、それぞれが思いを深め、祈り、そのための養いと訓練を受けていかなくてはなりません。

［最後に］

先月の日本聖公会総会をもって、私は七期一四年にわたる首座主教の任を終えました。これまで長い間、北海道教区の皆様にはご迷惑やご心配をおかけしました。しかし、皆様が私のために祈り支えていてくださったことを、今、改めて深く感謝申し上げます。定年まであと一年四カ月余、教区主教として、皆様と共に北海道教区の宣教に励んでまいりたいと思います。教区主教のために、どうぞこれからもお祈りとお支えをお願いいたします。

新しい教区会期、主の豊かなみ守りと導きが北海道教区の上に、それぞれの教会の上に、また、聖職・信徒の皆様の上にありますようお祈りいたします。

（二〇二〇年一一月二三日）

常置委員会報告

臨時一一月二三日

《協議事項》

一、第七九（定期）教区会に於いて選出された聖職常置委員に、大町信也司祭、下澤昌司祭、永谷亮司祭。信徒に、大友宣さん、沖田京子さん、矢部幸子さんが選出された。

二、第一回（臨時）常置委員会に於いて、常置委員長に大町信也司祭、書記に沖田京子さんを選出した。

感謝　北海の光献金（敬称略）

「金曜ランチ」の分かち合いについて

札幌キリスト教会
司祭　ペテロ　大町信也

札幌キリスト教会では今年一〇月より毎週金曜日、コロナ禍で経済的困窮にある留学生たちのための昼食お弁当の分かち合いを行っています。

この活動の背景について少し紹介させていただきます。日本キリスト教会豊平教会（以下、豊平教会）では以前から、様々な事情で「あたたかい食事」を食べることができていない人たちのために食事と居場所を提供されてきました。今年、コロナ禍において、この活動はいわゆる「三密」の危険から実施ができなくなっていました。しかし、一方で日本に暮らす留学生・技能実習生たちの生活に大きな影響が出ていることを知り、彼らを食堂に招く代わりに弁当を配るという方法でこの働きの更なる「現場」が与えられたのです。

この働きに、札幌バプテスト教会と札幌キリスト教会が加わり超教派の働きに発展し、毎週金曜日に三教会の玄関でお弁当をお渡しする事ができるようになりました。

金曜当日は、札幌キリスト教会からも、朝九時を目指して豊平教会にボランティアを派遣し、スタッフの方々と、フードバンクや献品で集まった食材からメニューを決め、ご飯を炊き、惣菜一つ一つを弁当屋さんのように詰めて行きます。平行して、札幌キリスト教会玄関前では、のぼり旗を立て、テーブルを設置し、お弁当と併せてお配りをするペットボトルのお茶・マスク・お菓子などを用意してお弁当の到着を待ちます。

出来上がった一二〇食の弁当の内、三〇食が札幌キリスト教会に運ばれ、正午から一時間、教会前で弁当の分かち合い（通称「金曜ランチ」）がスタートします。

最初は一〇食ほどを手渡せるだけだったのが、現在では顔ぶれも増えて三〇食がほぼ全て手渡せるようになりました。近隣の北大留学生が中心ですが、英語や片言の日本語でのやり取りの中にも笑顔が見えるようになり、先月からは冬服などの衣料品、毛布などもお渡ししています。

新型コロナウイルス感染症は、私たちの生活を圧迫しています。そして「私たち」とは、この地に暮らす全ての人たちのことです。互いに顔を合わせ出会いながら全ての人と、コロナ禍という一つの現実を共に耐え、支え合っていきたいと思います。

【献品歓迎】活動のためのカンパの他、お米やお米券、冬物衣料や長靴等の献品をお待ちしています。衣類はいただいたままお渡ししていますので、ご配慮頂ければ幸いです。

古本純一郎（兵庫県神戸市）

教区逝去教役者記念聖餐式

一月一三日（水）
午前一〇時三〇分
於　主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司　祭　ディビッド・M・ラング
一九四六年一月一日
伝道師　千　葉　今
一九四三年一月二日
伝道師　田　澤　廉
一九四五年一月八日
伝道師　エディス・M・ブライアント
一九三四年一月一〇日
伝道師　遠　藤　義　三
一九二三年一月一二日
伝道師　津　田　喜九郎
一九四七年一月一三日
司　祭　松　島　覚太郎
一九六〇年一月一三日
司　祭　八　代　欽之允
一九四六年一月一七日
伝道師　エディス・C・ペイン
一九四七年一月一八日
伝道師　青　山　操
一九〇八年一月一九日
司　祭　小　川　淳
一九〇七年一月二三日
司　祭　松　本　正　雄
一九七一年一月二六日
司　祭　野　坂　保　三
一九七五年一月二八日
司　祭　佐々木　忠　良
二〇〇五年一月二八日
司　祭　遠　藤　栄
一九四四年一月二九日
主　教　フィリップ・K・ファイン
一九二八年一月三〇日

▽旭川聖マルコ教会

一一月は五つの主日がお守りのうちに終わりました。礼拝で聖歌を一曲だけ歌えるようになったとたんクラスターが続発。クリスマスには歌いたいですね。そのような中ですが、嬉しい事もありました。三日、斎藤晃さんと小野咲さんの聖婚式が可愛い介添えを伴って行われ、八日は小林章一さんの洗礼式でした。二二日堅信式の予定でしたが主教様は札幌留まり。ご来旭の日を楽しみにしています。

一五日、広谷司祭稚内へ。み言葉の礼拝では山﨑直子さんのお話を聞きました。教会員のみのミニバザーも予想外の収益を得て従来通りの献金ができます。

保育園はクリスマスツリー、アドベントカレンダーが元気に遊ぶ子どもたちを見ています。

▽岩見沢聖十字教会

信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。

（ヘブル一二・二）

一一月、市中感染が広がりつつある岩見沢。いよいよコロナが私達の近くまで来ました。そのような中、園では聖誕劇とクリスマス会の練習が始まる。園児の元気な姿に大人が励まされる。私達はこれからも主と共に歩みます。

二三日、教区会。畠山秀明兄がリモートで初参加。事前に吉野暁生司祭より手解きを受けて当日を迎える。司祭の愛の労に感謝します。

▽小樽聖公会

一一月一五日の主日は永谷司祭不在のため、み言葉の礼拝の予定でしたが、急遽植松主教様が来てくださることになり聖餐式をお捧げすることができました。

新型コロナウイルス感染症の道内での感染拡大を受けて、二二日の礼拝より約四ヶ月ぶりに短縮版の聖餐式文を用い始めました。また、いつも以上に換気に気をつけるなど、教会としてできるだけの対策を行っています。

降臨節を控えて、クリスマスの飾り付けも少しずつ始めました。

▽帯広聖公会

一一月に入って、北海道では新型コロナウイルス感染者が急増し、様々な影響が社会活動や教会にも及んでいます。十勝地方でも過去にない感染者を数え、間近に迫ったウイルスへの緊張が一気に高まっています。一日も早い収束を祈っています。

一日の諸聖徒日の逝去者記念礼拝では、全逝去者の名前を山本信徒奉事者が読み上げてくださり、出席者一人一人が信仰に歩まれた先輩達に思いを寄せる時間となりました。

八日の教会委員会では、クリスマスに向けての話し合いを持ちました。

▽新冠（にいかっぷ）聖フランシス教会

恐らく教区内で一番遅い「収穫感謝礼拝」が一一月二二日（降臨節前主日）に献げられました。聖卓の前にはたくさんの〝地の産物〟が供えられました。いつもの年のような礼拝後の愛餐会は中止となりましたが、帰りには献げものを皆で分け合いました。特に、山田利子さん宅のお嫁さんの行子（ゆきこ）さん丹精のネギをどっさりいただきました。

翌二三日の教区会はコロナ禍でリモート開催、小竹代議員は平取・バチラー保育園にて出席となりました。

▽稚内（わっかない）聖公会

一五日、一一月の礼拝。本原さん、谷脇さん、牧師夫妻の四人でお捧げする。礼拝後、お茶をいただきながら、クリスマスの相談。一二月二六日にクリスマスの礼拝を行うことを決定！イエスの姉妹会のマドレーヌさんより、二本松からお電話をいただく。コロナ禍のため足止めをくっていたフランスより九月にようやく日本に戻ることができた由。無事でよかったが、フランスで身近にいた人々が何人も亡くなられたという。

〈永遠の今がきらめく冬木道　わぶん〉

▽苫小牧聖ルカ教会

一日は一年ぶりの主教巡回。少しの間ですが、お茶を飲みながら、マスクをして交わりの時を持つことができました。感謝。

例年ですと子ども祝福礼拝が行われるのですが、今年は新型コロナウイルス感染症の流行のため中止です。

一三日は聖ルカ幼稚園の「子ども聖歌隊スマイルチャリティコンサート」を、ぎりぎりまで悩みましたが無観客で実施。保護者限定のネット配信は好評でした。

▽函館聖ヨハネ教会

一一月の第一週目でオープンチャーチを終了。ゴートゥートラベルの影響か修学旅行や校外学習、観光の方々の来訪が絶えません。主日礼拝はマスクや換気を行って守

られています。しかし、中旬には函館でも感染者が増え、施設入所者や医療、福祉、消防関係の信徒は礼拝参加が困難に。クリスマスミニバザーも中止。バザーの製品は降臨節中、集会室の常設コーナーで販売し楽しんでいます。教区会は、牧師館からリモートで今金と参加。新しい生活様式を実感。降臨節に向かって屋外にクリブやリースを設置し、コロナ禍でも道行く人々に光を感じてほしいと願っています。

▽札幌キリスト教会

一一月一九日、ローレンス澤邊義一さん、二二日、サムエル芥川真悟さん逝去。召されし霊の平安とご遺族のためお祈りください。降臨節から降誕日にかけて過去の礼拝で録音された聖歌を収録したCD「アドベントからクリスマスへ」を制作。クリスマスを待つ備えとして各家庭に配られました。コロナの広がりにより、婦人会主催のミニバザーは中止、「よりみちマルシェ」は一時中断です。留学生支援のためにお弁当を調理して無料でお渡しする「金曜ランチ」は継続中。毎回三〇名ほどの利用があり、冬物衣料の配布も始めました。

▽新札幌聖ニコラス教会

教会前の蔦の葉も赤く染まり、秋風が徐々に肌寒い季節。一日、コロナ禍でお休みとなっていた聖書を読む会を再開。降臨節に備えてマタイ福音書一～二章を事前に各自読んで感想を分かち合う形式で実施。二二日、旭川行きがキャンセルとなった植松主教ご夫妻をお迎えし、聖餐式。一四年間の首座主教としてのお勤めに感謝。礼拝後にアドベントに備えてクランツやツリーなどをみんなで準備。教会掲示板のアクリル板を交換。降臨節の間JOCSの許可を得て、子ども号の絵本を毎週少しずつ紹介。

▽札幌聖ミカエル教会

一日、収穫勤労感謝の祈り、八日は幼児祝福式を行う。祭壇の前でお母さんと手をつなぐ小さな信仰者の姿に癒されます。

今年は様々な制約があるため、クリスマス楽曲集を製作、全家庭に配布しました。礼拝に集えない方々にも豊かなクリスマスの恵みが与えられることを願いつつ。

今年は礼拝堂献堂六〇年。シンプルな構造ですが、その美しさと存在感は高く評価されています。信徒にとっても信仰の拠り所として愛されています。それなりの手入れが必要で、札幌市の助成を受けてクリスマスまでに屋根の補修、傷んだドアの交換などの工事を行うことになりました。まだご覧になったことのない方はぜひお越し下さい。

▽平取（ぴらとり）聖公会

平取町出身の方が苫小牧や静内への高校通学や通勤で利用されていたJR日高線のうち、鵡川―様似間が波浪災害で長年不通となっていました。それが今般、日高管内七町との協議の結果廃線となりバス代替運行になることが決定しました。新バスの運行は来年四月からです。

地域では復旧の声や活動も多くありましたが、利用者が減少する中での決定です。

バチラー保育園の認定子ども園への建て替えは国や平取町の助成の見通しや自己資金の目途が立ち、今後現園舎での保育を続けながら建築を進めることになります。町内で望まれていた幼稚園が実現します。

▽紋別聖マリヤ教会

一一月に入り中旬には初雪が降ると予想していたところ突然、上旬の九日に約三〇センチの大雪に見舞われて、水分をしっかりと吸い込んだ重たい雪は、雪はねをするにも一苦労。その後はあっという間に融けてしまいました。

一五日に予定されていた聖餐式は、幼稚園舎での水道工事の影響でみ言葉の礼拝に変更し、次回の聖餐式は一二月二〇日のクリスマス礼拝です。二九日より降臨節に入り、教会暦では新年を迎えました。主の平安がありますように。

▽有珠（うす）聖公会

求道生活を続けてこられた小山内秀孝さん、育子さんご夫妻が、一一月一日、札幌キリスト教会にて洗礼をお受けになりました。

一一月二二日、聖餐式を予定していましたが、コロナ感染症の広がりを受け、やむなく中止としました。

一二月二七日、植松主教様をお迎えして行う予定のクリスマス礼拝を一同心待ちにしています。その時には小山内さん夫妻をはじめ三名の堅信式も予定されています。

▽留萌キリスト教会

一一月に入り、道内でも第三波と言われる新型コロナウイルスの感染拡大が続いています。教区会への参加手段について代議員の藤井浤さんと話し合い、体調面での不安があるため積極的にリモート参加を選択しました。さらにこの機会に教会のネット環境を整備し、礼拝や活動のオンライン参加ができるように準備することになりました。

金岩美穂子さんは自宅で転倒して怪我をされましたが、回復して礼拝に来られまし

た。皆様の足元を、主がお守りくださいますように。

▽今金インマヌエル教会

一一月八日の収穫感謝礼拝は、会食無しで、遠方より来て頂いた植松主教様夫妻と藤井司祭夫妻との談笑もままならない状況ではありましたが、日々コロナ禍で疲弊した心が和らぐ一時をお与え下さった事に感謝します。一四日には、境内地の防風林に成るから松を三六本植林しました。天沼彰範夫妻の前準備のお陰で、予定より大幅に作業時間が短縮された事と皆様からの御支援に大感謝‼後は内側に菓子胡桃に栗、桜桃や銀杏、梨に杏子にブルーベリー、願望が着々と現実へ向かう喜び…にやり。

▽室蘭聖マタイ教会

四日、霙（みぞれ）混りの初雪、冬将軍の到来。教会の水廻りの水落とし始まる。

八日、植松主教、吉野司祭来会。贅沢な聖餐式にあずかる。主教様の説話時、首座主教を今期で退任との事、一四年間長いお勤め心より感謝。お疲れ様と思うばかりです。また、当日三千代夫人が奏でるオルガンの音色に心が豊かになり感謝です。

二二日、信徒達、早めに教会に集まりクリスマスの飾り付けを終える。一四時吉野司祭来会。他教派の山岸姉、幌別在住の落合姉と共に聖餐にあずかり、礼拝後聖書の輪読会を短い時間行う。

改修中のトイレ、一〇月二五日完成。吉野司祭より祝福を受けました。

▽北見聖ヤコブ教会

諸聖徒日、収穫感謝礼拝を一一月一日に行い、逝去者名を読み上げて祈り、また大地の恵み、労働の稔り、私たちの命の糧を与え給う神に感謝を捧げました。一〇日には窓の雪囲いをし、一四日には除雪機がメンテナンスを終えて帰って来ました。二八日にはアドヴェント・クランツやツリー、リース、出窓の所にはプレゼピオが備えられました。二九日の降臨節第一主日のフェイスシールドを付けた司祭の姿は、どこか仮面ライダーのようでした。神の恵みにより「変身！」。

▽網走聖ペテロ教会

初雪も降り、寒さもつのる日々、一一月八日に収穫感謝礼拝が行われ、祭壇に収穫物が捧げられ、感謝と賛美が捧げられました。二五日のペテロの会ではいつもの清掃に加え、アドヴェント・クランツやリース・プレゼピオなど降臨節の諸準備をし、また駐車場の排水溝の泥除去作業などをいたしました。長年使用しているストーブが故障するようになり、先日修理・交換いたしました。同型のものや各部品はもう無いそうです。

冷え込み厳しき中、小さな群れも主に守られています。

▽深川聖三一教会

一一月一日、委員会でクリスマス礼拝を二〇日挙行、イブ礼拝と元旦礼拝の中止を確認。四日、保育園の礼拝で植松主教様も体験された灸を、よもぎの葉をもみ、もぐさを作り火をつけて実演す。一一日、園児の祝福式―七五三の祝い―子どもを断固病魔から守りたまえ！一二日、職員会議、須網保育士より感染性胃腸炎について園内研修指導あり。二五日、保育園礼拝、光の子の時間で一〇メートルの超大型の数珠もしくはロザリオを造る大作業を全員で行い、次回に珠をはめこむ予定。

▽聖マーガレット教会

一一月一日（日）、諸聖徒日。全逝去者記念聖餐式としておささげする。全逝去者の名を読み上げて祈る。教会は天にある者と地にある者、その交わりにあることを覚える。一九世紀、イングランド教会のジョン・ボード司祭の作、聖歌五二一「主よ終わりまで仕えまつらん」をCDで聴き、その詞を味わう。

二九日（日）、信徒セシリア熊谷幸子さん、逝去。八六歳の誕生日を迎える前日に息を引き取られる。家族葬として行う。主を信じて世を去った者に主の平安を祈ると共に、ご家族に主の慰めを祈る。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸（あっけし）聖オーガスチン教会

月を増す毎にコロナ感染が拡がる中、毎週一五、六人が教会へ足を運び、礼拝を守る信徒の静かな姿に力強さを感じる。主に感謝します。

及川正二さんの受洗を機に、キリスト教学習会が再開しました。信徒以外の方にもお声を掛け月一度集まり、より深い学びの場となっている。

二二日（降臨節前主日）は、教会暦では最後の礼拝でした。これから降臨節・クリスマス準備に入ります。

聖オーガスチン教会を、一三日（金）有志訪問、清掃・礼拝。一二月早々クリスマス飾りのため訪問予定。

頌栄保育園では、コロナ禍の下、例年のようなクリスマス練習の元気な歌声は響きませんが、グループに分かれ準備しています。先生方の感染予防のお働きの上にお導きと、大きなお恵みがありますようにと、祈っています。